花江都歌舞妓

# 年代記

初編

壹

津田文庫
文庫1
1767
1

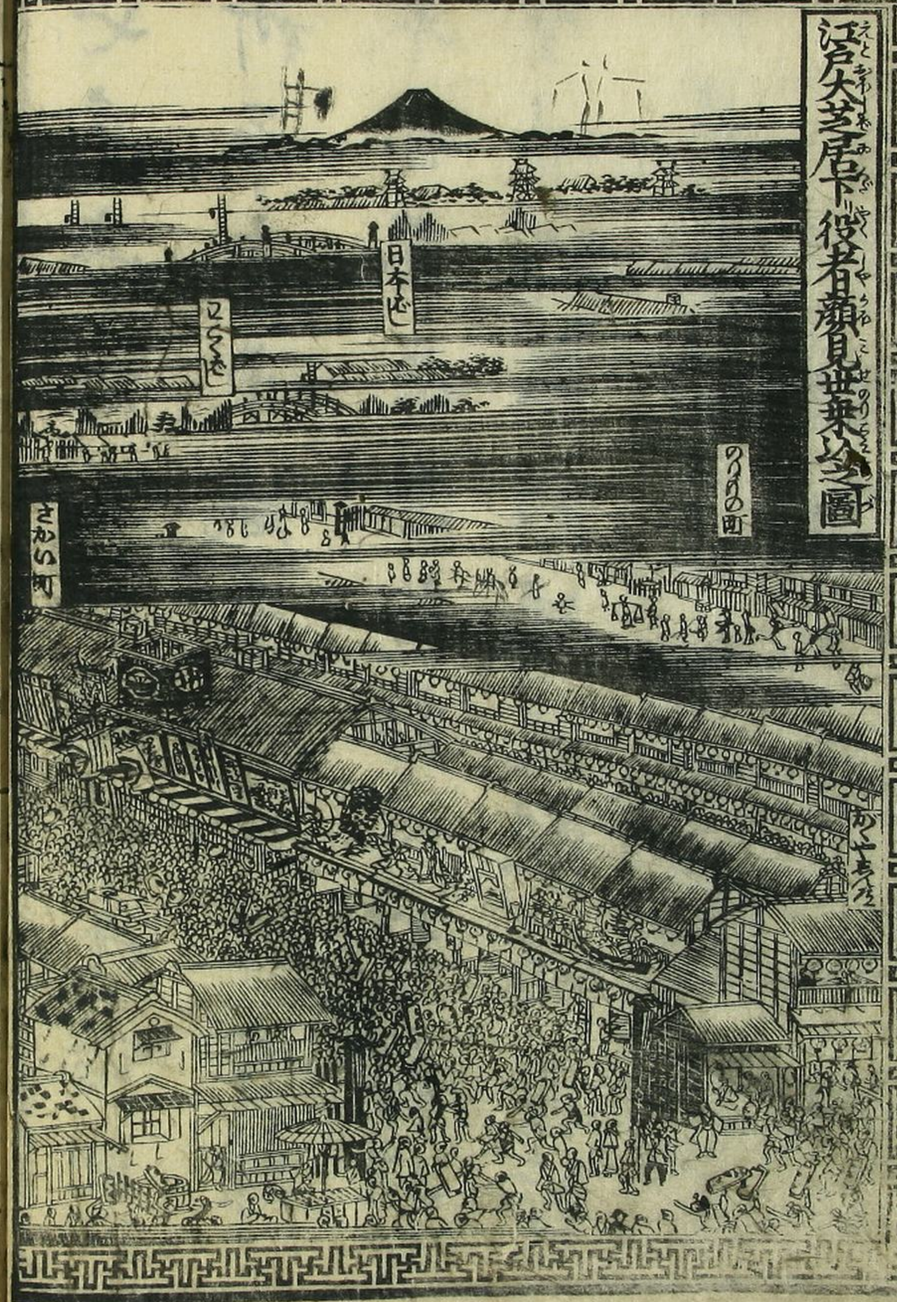
早稲田大学図書館

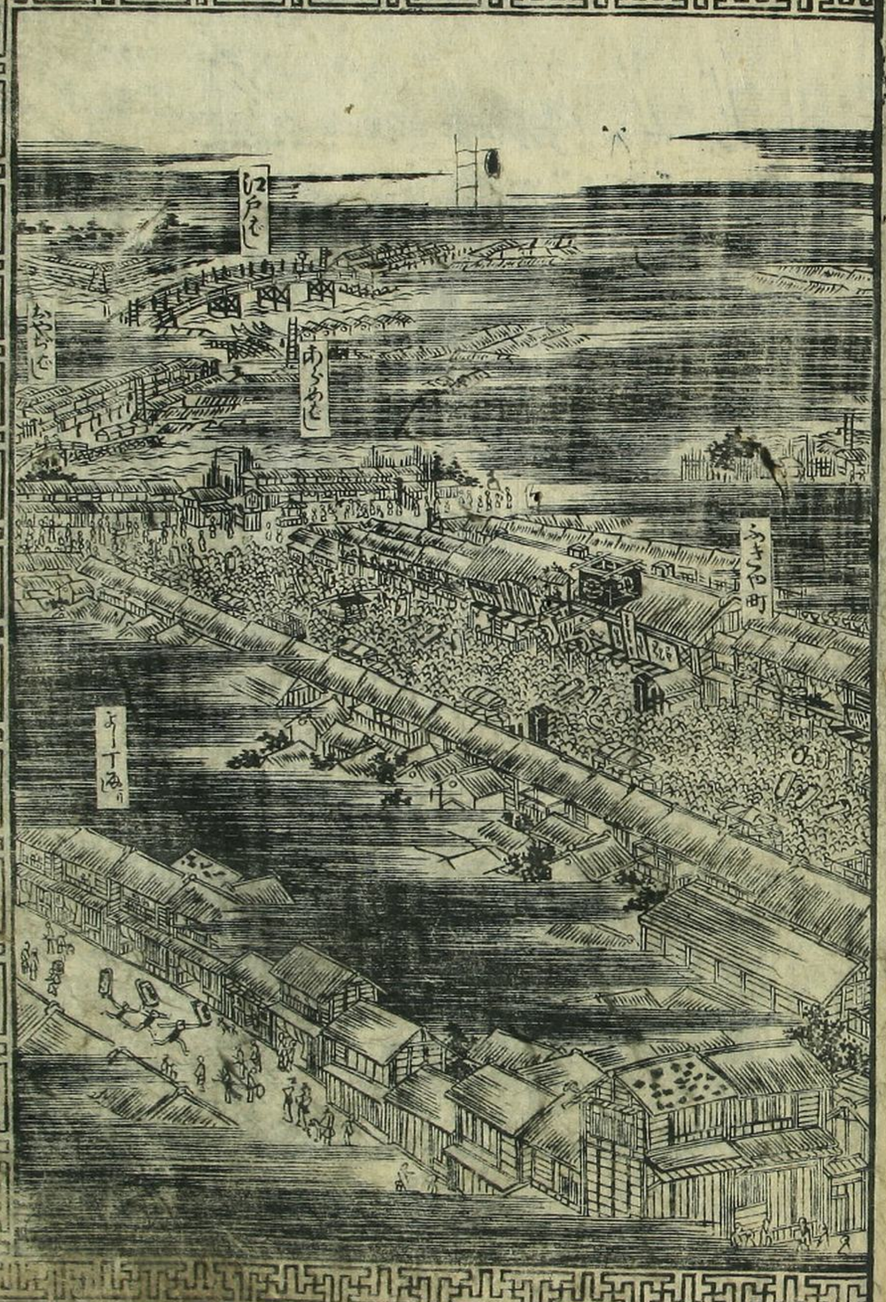


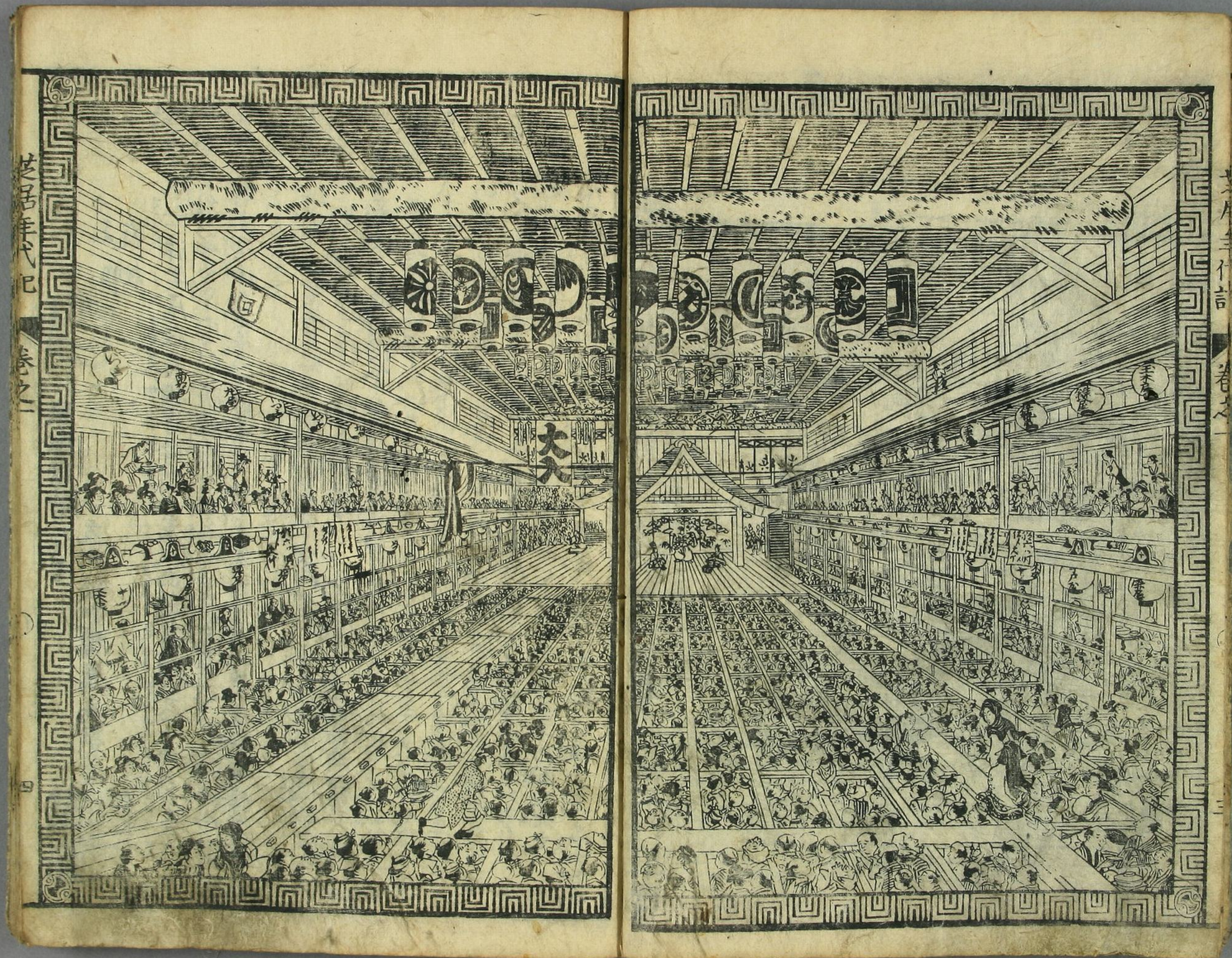
二面起楼下霞廊。廣庭千丈廣
中央。魚鱠作瓦蔽日光。长廷界
畫分畛疆。僮僕虎班孫守席。主
客魚貫来觀場。充牖塞院簪履
集。送珍行酒傭保忙。衣冠紛紜
付典守。酒胡徧記皆有章。碁

刀遣處雨毛血酒肉臭味連士商臺中奏伎出優孟。奏上擊碟催壺觴。淫哇一歌亦年側狎昵雜陳群目張。雷同交口贊歎起。解衣倒弁弭咿將。是詩聖蔣心餘戲園詩中句

也。烏亭老人作戲場年譜。貌祈予言。予識老人三十有餘年。不忍失其為故也。姑錄斗句以代題詞。矮人觀場。遽作如是觀。


江戸大芝居役者賑見世乗込之図
日本橋
こなぐ
のりの町
さかい町
あら町


江戸橋
あらぐ
ふさの町
よし丁通り


大入

# 芝居年代記

東都滑稽作者　立川談洲楼馬馬撰著

## 凡例

一往古より。二ツ津芝居狂言役者評判の事は。西鶴。其磧。八文字舎自笑の撰集。耳塵賢外。やや草。めづらしい佐渡島日記。名人上まれ舊きおとの系ふ。歌舞妓事始。役者大全ホ丹。芝居の起原由緒。役者の家譜を書ものこる前板。挙て写ず。その證をもとも委しく。山道の亀鑑といふべきか。

一爰ホ予稚時より芝居を好。今齢古稀ホ近。ざれば六十年来戯場と同。将古老の物語を。見聞ホ聞たるまゝ。百有餘年れ狂言番附のあらしを。書よ。揚析ちくホ校合れ助筆を操る事久しく。ホ持伝へ。ホ元狂言番附のあらしを。書よ。揚析ちくホ校合れ助を。黙ちく。彼ハ是ハとうつけ。江戸芝居の鑑。寛永元甲子年より。文化七庚午年まで。百八十七年ガ間。狂言名頭の冥場。役者れ始ホ絵名人上まの藝伝の手無行ありしといふせり妓ざれ。ホ。月且評のなのりそふるまで。故人紀国の役者の絵伝を伝ホ加へ。澄を著。花江戸歌舞妓手代記と号。全部八巻とハ。ちりね。

一ホ一ハ巻ホハ。寛永元甲子年より。享保十一丙午年まで。百ハ年の間と記ス。江戸芝居の始ス。芝居四座ホ。正徳四年山村座断絶して。ハ座と成し。上ハ写ス。

元禄六酉年四塲居百人一首の絵。持伝ハ有る伝写ス。ハ世ハ伝れ由緒狂言惣踊の圖。中村伝九郎。中村七三郎の名誉。市川団十郎生生唐犬十右衛門海老蔵と名乗付し。実況。四代目市村羽左衛門。ホ。ハ代目市村羽左衛門。ホ。ハ代目市村羽左衛門。ホ。ハ

二代目團十郎海老蔵と改名。三代目團十郎せりふ。外三悪玉合草毛虫爽のせりふ。

一　寸三の巻あへ。元文元年丙辰新見世より。延享四年丁卯顔見世まで。十二年ゞ間と記す。上る字を恵へ。元禄十丁巳年より。享保十二申年まで。二十一年ゞ間。二代目團十郎狂言。

二代目大谷廣治。中村助五郎。初代森蘭丸。二代目判吉三傷。萩世佐三郎大尚り。宇十郎。ゑの助。

三代目團十郎。海老蔵。二代目團十郎。海老蔵。二人。京清。宇三鬼王祐経。二役。浦右傷つ朝比奈大尚。坂東三

幸四郎。巌流島の新演奏。源語門之助。海老蔵。二代目團十郎助六。宇十郎。夷の謂。岩藤

掛合。我拍語。海老蔵上方。宝ア狂言。評判。二代目宇十郎のゑ。高尾。職悔の亦性のゑ。遊廓

亦性。ゑゑ。柏延兼好の狂言。浦右七世世五世。績同。菩提の操狂言之事。

一　寸四の巻あへ。延享五戊辰年春より。宝暦七丁丑年まで。十年ゞ間と記す。

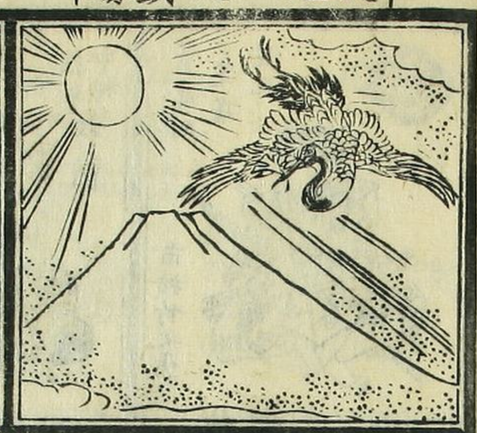
市川海老蔵。沢村宗十郎。京清。辛忠義。ゑ。ゑ。ゑ

桐座をそなは四郎七郎ん化の巫。森田座をそなは菊之丞道成。桐座をそなは四郎七郎ん化の巫。森田座をそなは菊之丞道成。中村仲蔵上方生狂言
第三段は四郎女賀舟の巫。滅尾為十郎やり。鬼王源為三清の為。五代目団十郎ゑび蔵。親子
尚りの細評。幸四郎朱三郎仲蔵房り駕。五人男久人女のたくみね。
名を取なるつゝ稼。は四郎暫のつゝ稼。門之助男女蔵常世は四郎角力れ負れつゝ稼。蝦蔵滝五郎。は四郎八百屋お七の大あらし。
三津五郎男女蔵常世は四郎角力れ負れつゝ稼。蝦蔵滝五郎。は四郎八百屋お七の大あらし。
坂東蓑助市川蔦蔵。対面織あそのつゝ稼。森田座河東浦と称中村座大都代内と称
沢村宗十郎二代目中村時蔵。尼岡仁左衛門下り宗十郎五人切の狂言大尚。相座名屋七代目市川
新三助初舞台。河東浦ゑて幸四郎鰕蔵秀郷将門大尚のつゝ。

一寸八の巻ゆゑ。寛政八丙辰年春より。文化七庚午年春見世まで十五年ゞ間と記と。
二日ゆゑ。狂言。久米之助おはとおれ。八百蔵長右衛門。団十郎は七二代目仲蔵。浪物の五右衛門中村
の辰逆成るの巫。尼岡仁左衛門。松永大膳京極内匠伯も大尚のつゝ。市川鰕蔵一世一代醤の
ちゝ稼尾上松助早替りけるつゝ。嵐三八下り。新蔵七五郎と改名。六代目団十郎廿一才ゆゑ座頭と成。
白猿ゆ上狂歌のつゝ。嵐雛助下り。六方仙石川五右衛門の大尚のつゝ。宗十郎。源之助下り。尾上栄三郎
あ人世のつゝ。ゑび蔵七代目団十郎と改。白猿再勤。市川団蔵あ人六郎順れ之大尚のつゝ。その外
享和元年十年ゆゑの役者。立役生世のつゝ。詳は記。狂言名頭ゆゑ。役者皆名大尚
の評判を述る。凡例摽頭ゆ解ゑ多るれば贅せず。披閲して知べしと云爾。



天地一大戯場　開闢



# 芝居年代記巻之一

東都　談洲楼焉馬著

## 花江都歌舞妓年代記

寛永元甲子年　寛永元甲子年ヨリ享保十一丙午年マテ百三年ノ間ノ事ヲ記ス

柳江都芝居の始へ　寛永元甲子年　三月十五日。猿若道頓と
いふ者。小風の名人。元祖猿若勘三郎。尚也。地蔵栄三分。
元和年中。哥舞妓狂言座仕度旨。御願申上たるゆゑ。
寛永元年甲子の春。天下泰平。国家安全。ゆゑ吉例と
なて。狂言座太鼓櫓。ゆゑ高竟有てありがたくも中橋ゑ於
て。幕の紋ゆ舞鶴を附。奥行を左家の紋ハ元祖勘三郎。
御當地よりなて。芝居ゆゑ吉例のはじめ。夢中ま

万治　寛文　延宝　天和
貞享　元禄　までの役者百人を撰く。四場居色競といふ。坂本馬馬蔵書うり。爰ゑ字と。

富士山の頂上より。鶴山折爰ゑ浪杏を載てはゑらえ。家よ弄迄と見。爰さゑ不思議のるゝ。附の古者ゑ尋問ふ。彼がいろ〳〵。雀ハ日れ本の名多。山折爰ハ貴人ゑ初代傳る調寄ゑり。銀杏ハ扇の形はして未廣く。足いてうゑ名を変して。ホく舞の家と成べし。吉場とちんざんと誠よ目出度るよろゑ。頭〻相けゑ。依て紋を変ゑよ改るとゝや。其後弄ゑ悼ること有て。隅切角ゑ浪杏を付る。足も折ゑ。ゆいてうの謂あれば〻。

同二乙丑年　猿若は藝ハ能の間狂言のゝじ。

同八未年　までの間ハ芝居小屋立〻。

同九申年　中橋より芝居を称宜町へうつる。今の人形町の〻〻〻

同十酉年　安宅丸御入紀ゑ付。猿若ゑ金の麻毛と下されき。ゑり音頭の紀ゑをうゑ。此比都侍内といふ者芝居ゑ免ある。

同十一甲戌年　泉州堺の産村山又二郎。足ハ名ごやの頬相叶。祐村座の元祖〻二代目市村宇左衛門ハ上及市村。下津間の産。幼名竹之丞。又外左衛門ともいふ。芝居名代。村田九郎右衛門て彦作といふ者と相座本少て舞行を樽幕の紋ゑ樽を付る〻柳歌弄妓の盥觴ハ昔ゑ羽院の御宇。通憲入道法蓮ゑ堪能の人なれば。弄楽を和らげ。儀の禅司といふ女ゑ弄を教ゑ白れ水干立ゑ長太刀を佩ゑ。男弄といふ。禅司ゑ娘を静といふ。足ゑ侍人後ゑ白拍子といふ。夫を学びて猿若ゑ大小の弄といふ。

中村七三郎

玉川さらー

多門庄左衛門

古風の藝あり。甚だ後年。中村仲蔵中山小十郎堂改名して幼三郎十代目の壽に足を動る。その頃は圖を六の巻よりあらため。次は写真猿若の画図を寛永二十一年。十二月廿六日年号改正保元申年木挽町山村長左衛門芝居始る。此頃は踊狂言なり。同正保五年二月十五日改り。慶安元子年此ころ市村座へ附股洋受を又猿若金の麝香拜受を同四辛卯年中村勘三郎座を今の堺町へうつす。同五年九月廿八日改りて。慶安元壬辰年七月三津芝居ゆるあつて沽停止ある。廿年市村座元祖村山又三郎終る。同二巳年京都よりおいて村山又兵衛とゆふ者。度々御願ヤ上再度芝居無行叶ひ。男かぶきと改り。其後若衆ハ髪を剃わど

中山小夜之助

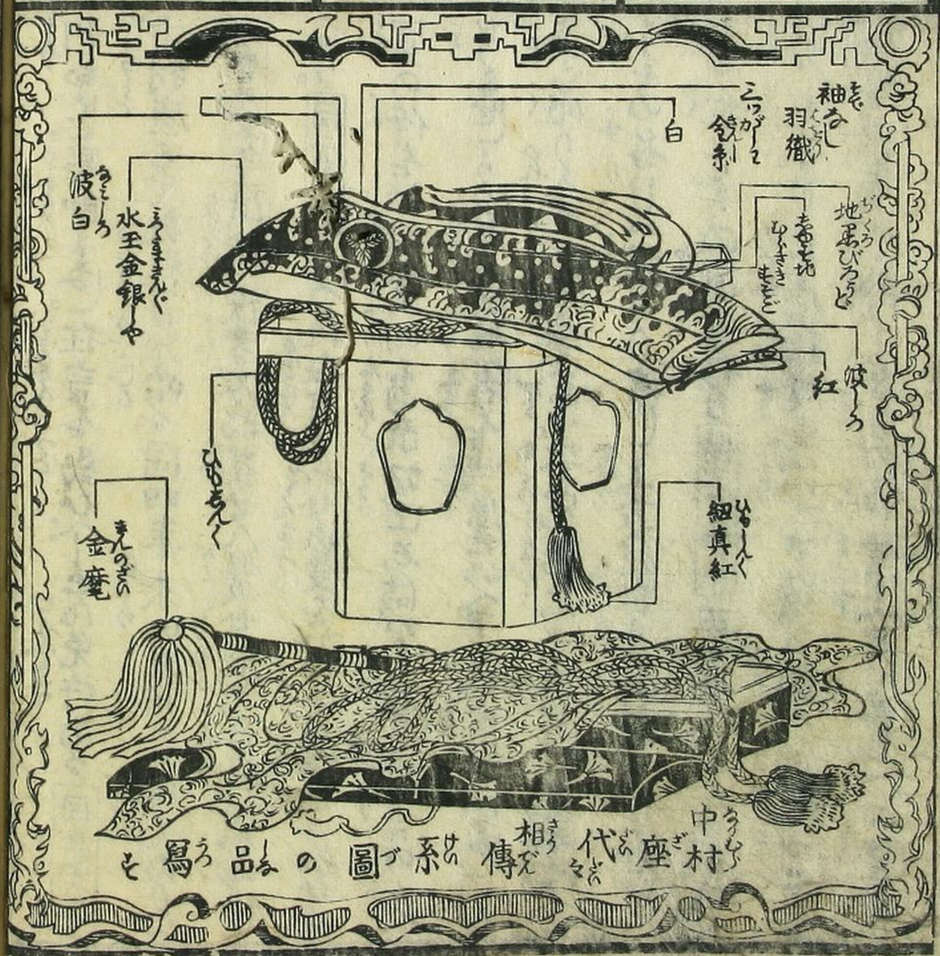
坂田四郎左衛門

宮崎式部

判おとし。野郎よりは。狂言を勤むべしとは免許ある。同三午年市村座ゆて放狂言始る。同四年未四月九日改元ありて明暦元未年此ハ役者。みな茶せん髪。女形ハ手拭をかぶり。同二申年たそれ狂言とハ。女髪をかけて。鳴系けいせん買の体を仕組。髪切鬼系。坂田ちんぴら抔と。狂言の題号ゆせより。芝居の物名を嶋原とゆへ。又その後いとへの事を彫り入て。八嶋さま系。安宅鴻系ともいひ。年移て今その名目ハ絶さり。巳上方ハ狂言名代。よけいせいと上ゆ。その風殆わり。同三丁酉年正月十八日。十九日。と。江戸大火ゆて。芝居類焼。依てさほつる勘三郎親子とも京都へ登り。その節さる者の。堂上ゆてきとしたさと。

勘三郎新蚊知ともふ系上仕る。猿若の狂言と相勤むる。
伝襲兵衛として將軍より名を下され新蚊知と改る。明石と
唱ふ。猿若の衣裳表書地の金入紫裾濃御簾の総角右より写。
同年九月親子なふ江戸へ立帰る。同年市村宇左衛門行三烝と
改む。翌年明暦四年戌六月九日。元祖猿若勘三郎法名
教誉道順信士。寛永元年より。三十五年此間座本を勤し
なり。明石二代目勘三郎と成七月九日改り 万治元戊申年
足より中村勘三郎といふ 同二亥年 作弥といふ若元ぐさくる。
同三庚子年 木挽町五丁目へ森田勘弥芝居を初元祖より田
太郎兵衛。二代目坂東又九郎。三代目を森田勘弥といふ古来家
の狂言佛舎利といふなり○伝ふ曰比江戸和泉町より堀越十郎






中村座代々相傳系図の品々写

とゝふ者あり。生國は下総国佐倉幡谷村の産。先祖は甲州の産なれども。故ありてこゝ谷村の郷士となりしとぞ。子孫民間に交りて富農となり。然るに十義饑荒の土地の浦山敷や有んと。家に跡を潜り。慶安年間のころ。江戸に出て住せり。万治三年庚子年男子生れ。時にその頃の狭客也。唐犬十右衛門といふ者。幼名海老蔵と呼る稚きよりして妓芸に好こ。戯場に入て名を改市川團十郎といふ。十四歳にして紅粉を以て惣身を飾荒事といへる所始め。其名四海に著して。今も子孫に残れり。唐犬十右衛門を初め。海老蔵を指地に重る御お今七代目に弁正持も。将先祖より伝りある。二本太刀あり。夫を取り。狂言太刀に拵へ。後に團十郎

として荒事は狂言あり。元祖團十郎。父母に孝心なることゝ。父の恩に白絹の述られる事。二の巻に記す。万治四年四月廿五日改

**寛文元辛丑年** 市村座へ右近源左衛門といふ女形下れ。

**同二寅年** 此ころ都侍内芝居有。

**同三卯年** これ女形といふ始なり。

**同四辰年** 四代目市村宇左衛門。玉川主膳といふ若元形下れ。

**同五巳年** 市村座と大戯場といふ。

**同六午年** 中村改め竹之丞。玉川右西ぜんと相座本にて。ちぐれ狂言。しまく大道具を始る。

**同七未年** 元祖傳九郎初年蓋。

**同八申年** 座ゆて惣ぢり始る。

**同九酉年** 京都に七ツ所のやぐらと森田座元祖太郎兵衛終る。

**同十戌年** 大坂にて塩屋九郎右衛門。ちぐれたり。

**延宝元癸丑年** 寛文十三年。九月廿一日改り。元祖市川團十郎。

中村座
家の狂言
門松
市川猿若

市村座
家の
狂言
壽
萬歳

あさじく
街道
下り

十四才ゆへ。初て顔を洗荒ゝの狂言ゝ。同二寅年 二代目勘三郎
八月十八日ゟ統る。十七年ゟ間座本ゝ。同三代目勘三郎。今年ゟ
五年ゟ間座本を勤る。同三卯年 五月ゟ挽町山村長太夫座ゟ。

勝関誉曽我 そゞの五郎付家團十郎。十郎祐成ゟ宮藤左衛門吉
ユ藤左衛門ゟ永澤藤右衛門。菊田所三郎といふ者仇名を達ア
所三郎といふ。しゝゞ梶原平蔵の役。足曽我ばゞ狂言のはじめ
ゟて。元祖團十郎。ゟ郎の根元なり。同六午年 八月十日。三代目
中村勘三郎。四代目勘三郎今年より。貞享元年まで。
七年ゟ間座本を勤る。こゝに市村座四代目竹之丞。伎藝の
誉れ世ゟ高く。猶ゟ容貌美麗なりしゞ。故有て無常を悟
菩提の門ゝ入ゝ。今年九五才。佐渡三郎憲清五郎ゝ

西行法師の狂言を。一世一代ときゝゆ。舞納の日刺殺。家者
ゝ。ゝ。ゝ。

松本金太夫
竹中八三郎
つぐこたつぐ三郎
若山つぐ三郎
たいと源内
村山四郎次郎
猿ゝ中村傳太郎
市川團十郎
中山小夜の助
玉川孟三郎
山川内記
田代清左衛門
小ゝ梅左衛門
さる若山三郎
中山義代之助
沢井小傳次

神上人の役大当り。江戸中大評判。未世も家の藝と成。

此年四代目勘三郎、浜屋して中村傳九郎となり。弄蓋を勤る

**同二辛未年** 五代目勘三郎。子年より元禄十四年まで十八年ゞ間座本を勤る

**同三寅年** 此ところより本弄蓋ふなるふと

いゞでも上桟敷ばかりゆて。氣遣ハなし

**同四卯年** 竹頃績牡丹

ちいゝと。中入ふ丹前西行。想をとり有。貞享年中の浮世

絵の写一番より有。貞享五年九月晦日改 **元禄元戊辰年** と成る

貞享五辰の三月盲より山村座

古今兄弟 **兵曽我** 十番績一五郎時宗ゟ市川團十郎 ゟ宗十郎五郎の根元

二日祭り 一十郎ゟ宮嶋伊吉

大々當り

同辰の三月十五日より市村座

鎌倉女女 **初戀曽我** 一十郎祐成ゟ中村七三郎 ゟ七三郎の根元

若殿原朱雀 一貧箱王野田義之恵後ゟ絶新五郎とふ

四番績

大々當り

同辰の三月九日より中村座

全盛梶原 **大磯通** 一初ひな古中村伊九郎

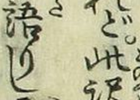
奴朝比奈 ゟ朝比奈の根元

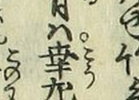
四たんぐ

大々當り

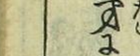
右之座五郎十郎。朝比奈ふ古今名人之幅對の大當とふ

四代目中村勘三郎。浜屋して弄蓋を勤め。中村傳九郎と

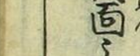


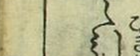



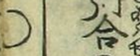
此これを中車とふ役者大全ふ曰伊九郎紋い

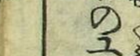


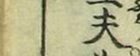
れゞ。猿若と号世役者

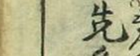


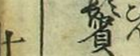









なり。とあれゞ。此沢次ふ記と○伝ゟ曰三代目市川猿蓑五代目

白猿ゟ始語りしる。弟子に或時ゟ見ハ伝九郎始て奴丹前

又ゟ絶の出。足手ゟ封面ゟ合の工夫先糸贅に判おとし。

鬢髭のかつらを何はせんとそひ。ぐつとせ。掛掛敵役を演ぜ
ども。いろ〳〵めれど勇ましとて。

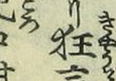
此はわるひげを一ぱいのみ
にらへ見を
かまつやうといふなり

扨此わるひげ。一ぱいのみ。にらへ見を。かまつやうといふなり。
筋をゝ引。目のふち紅隈どりにを結び歯を出て。スサとらそ
ゆふむこ侍九郎性付歯并よの男あて西とりや。見を猿芸
の家れさる隈と。今も名ひろの役勤むる者ハこれを主伝れ
事と成まり。扨まこ朝比奈の。せり場の丈ハ上方れ長ゆも
似合ぼ。関東ゑこの中ゆ。おゝし。れ言候こそゆふんと。ふの府
ゆ。ふまれ田舎より。山ゆ。れ乳母を。ゆ。ふる。赤ゑ江戸訓ね者故

一すじふとにも。それてゝ。ぢうぐめ。ぢらとぎやうろふようてゝ。ふく
のこゝとはんでるちんぐ。性ちりみ子ざりさ。ひふこと紋あり
きやりりふき稲人。ちひくゝふ脇せるよ。稲とひくるとけて。毛こゝと
郭比ちふの言語よまて。荒事をせしとらふ。それより度れ
朝比ちふの大菊り。事絶の紋ふ智紋の鶴れ丸を付ひゆ昔れ
郭比ちふれ紋三浦の三引ようふ鶴の丸と洗人見る評判宮ふ
三ケ津の名人なり。往古より。江戸役者は岡山と云此伝九郎紋
ふふ双冊前。郭比ちふ家は流云ふ。當り狂言ハ。尺桐弥七奴行平
伝九郎傳兵衛。古今の大菊りふ。近比中村仲蔵。二代目伝九郎生子雛名秀語とふ
手に洗ひしハ元祖中村伝九郎紋ハ隅切ふ申とふ字ふ紋
如此付ふり智紋ハ洗の丸ふ。其後

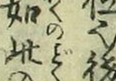
如此ふ智る此ところハ

我四代目勘三郎ふ成芸居ふ繁昌なれば。有がた世の中だと
いふたゝ拘ふ中とらふ文字を四ッふ田の字を比とやされば
各人上ずと。ゑ門ずれ役者ふ数多ふれハ左右の中といふ文
字をとりて紋ふ。

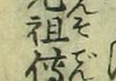


如此の紋今振附。中村伝次郎方ふ
あり。中村仲蔵ふ如此紋を付る。扨又

の字ハ坂東氏のものに。
舞鶴を添ものとふ或ハ道外方。中村伝八娘ハ仁紋を付後よ
名人ゆゑ。ゑ比の評判記。上上吉の位ゝ後年寛延宝暦の比
市村羽左衛門丈子。坂東三八



如此の紋を付ゝ。これハ
市村座ふ坂東の名字ある故ふ。ちふ。又



上下を丸て
足を元祖大谷廣右衛門へ半を皆元祖伝九郎門業ふりと。

秀鶴の以下

元禄二巳年　荻野沢之照といふ女形。紫だうしの左右ゆ鉛をはけるをかぶる。錦帽子とも。又沢こ之帽子ともいふ。同二午年　伊茂小太夫といふ女形。廉子ゆ深を忘れしより。小さまがのと京大坂あてい。江戸廉子といふ。同四辛未年　ゑの木辰こ助。鎗踊の巫姫なる大當りゆて宝晋歌。辰こ助へ巻と。

葉こきゆ法くげまゆる。又やでん帽子といふ。加茂川壮左兵衛

同中村かげまゆる。

とふ者。二夫して四角ゆる。指の切れ角ゆ。袖をはけてかぶりしと

かや　同五申年　加茂川の一座。水木辰こ助。二夫ゆて紫縮面ゆて

拵へかぶり初しより。未世ゆ是を学ぶ。同元祖荻野八重桐ゆる。

同六酉年　坂東又太郎下ゆ。同霜川元祖市川段十郎。京四條

の芝居へ上る。京都ゆおいて。椎ゆうと七賢の門ゆ入こ。浄瑠璃を学び。戈牛と呼ふ。是役者の浄名を呼し始るゆ。甚こ流の古代番付ゆ段十郎と書こる有上京の舞園の字ゆ書かえるゆ也や○仕ゆ曰。ゑ木辰こ助こ浄瑠璃ゆ志ふく。其角の弟子となり或と兄友こち。涼みゆ行こて

さり形ごら羽織ここせん夕こご矣

とふ兵衛句ゆりとかや。女形の情竜こて面ふ。元禄六年

癸酉正月四場居百人一首といふ板本。市川白猿より伝て

予ご筆書なり。歌を除て。七図を上ゆ写。元禄七戌年　小川

善五郎下る　同八亥年　中村七三郎。名古屋山三の役大ゆこり

同九子年　荻野沢之悪。袖岡政之助女形ゆる紳大當是女形ゆて

動る始めし。同十丑年市川團十郎京都村山平左衛門座へ下り大福帳縞屋此狂言をばゝくれ始めし。江戸中村座へ下り元祖山中平九郎より團十郎大福帳の文字はせりぬ。文角し同年五月。團十郎悴九義八はじて初舞臺兵根元曽我五郎付家お元祖團十郎荒行ゝ所悴九義八通力坊といふ山伏の出端。市川團ゝ恵引合せて足八ち別孫の團十郎悴九義とゆ其ものに上実ゝ十ヶ年行の内ゆ二代目團十郎といふ名世界ゆ廣まりし。玄く微妙といへども足まで子役といふ事なく。若衆方といひしゆ九義生てより。子役といふこと始り。同霜月山村長左衛門座信田和合玉ゆ子ゆ左近ゆ團十郎、大角。同五月葛城小夜風同手子郎ゝ嬢付左衛門。前髪名吾郎。大評判

同十寅年中村七三郎京都へ登り。山下半左衛門座ゝて傾城浅間嶽の狂言古今の大当り。同年江戸中村座ゝ於て。坂十郎子。市川團之助市川團蔵と改名。親ゝ松本巳郎三郎とのゝ役者ゝ。今年堺町芝居ゝ焼。同十二卯年森田勘弥四代目と成。同霜月京都より村山重左衛門。中村七三郎ゝ人下り。木挽町山村長左衛門座ゝ出て京みやげ浅間ゝ嶽大ゝ当り。其後三ヶの津ゝて役者かゝりて享保十五年ゝて此狂言十六度いじ。何ゝも大入大当とかや。同十三辰年山村座ゝ大日本鉄釈仏人形そぶの五郎ゝ團十郎。同霜月中村座金平六條通坂田の金平團十郎。怪童丸ゝ市川九義ゝ。今年森田座休ゝ。同十四巳年七月四日。五代目勘三郎終る。六代目勘三郎ゝ足ゝ。五十年の間座元

を勤る元祖大谷庚治森田座へ役者を務る。中村座

**葛城呉越戦**　同十郎不破の伴左衛門丹波の助太郎二役七月

**高館秋庚狀**　大谷庚右衛門。市川団十郎二人毎年大當り。

**同十五午年**　八代目市村竹之丞。少年五才にて初く舞臺。後年沃

〻く宇左衛門と改称名を何江とよぶ名人上手と世よげえを

同顔見世森田座〈天地人筒守〉いごこの小治郎お市川団十郎。

暫の大わらし　**同十六未年**　市村座　**源氏六十帖**　団十郎源太

荒王の役なりしが。十月九日関東地震同九日江戸大火にて

中村座市村座とお類焼を見て地震火事のこと　**同十七甲申年**

芝居番清生まれ。市村座にて狂言**星合十二段**　市川団十郎

佐倉忠信の役を此世の名残として。嗚呼惜哉行年四十五才

西方浄土の歌舞の菩薩と成。門響入室覺榮

と。増上寺中常照院に葬を残。その年齢九歳十七才

父の中陰六月まで休。七月より木挽町山村長太夫座にて。三代目

市川団十郎と改名。宮傷侍吉川合せ。父追善の口上

見物の涙絞る神仏ねふた。狂言名代〈平安城都定〉八力

丸の役なり。其府宝井其角追善の句ふ。

わり顔の父を長栖や雑子ゼ声

同年十一月廿二日。年号改**宝永元甲申年**夫より三代目宝十郎。

下総国成田山不動明王へ祈誓を掛。父が勝ると称ずる。

不孝の至なれど家名相續することを懐ろん。あま称く

世界ふ名を揚ん。と立行て祈ること。なくなり。扨こ我

十ヶ年程の内日本いつぽう及び唐高麗まで。せ名度ひろ
き事。偏に成田不動明王の霊験有がたしとて。家名を成田屋
とゝふ 同二酉年 元祖中嶋勘左衛門立役となる 同三戌年 正月
堺町。ふきや町類焼。同霜月又荒焼。今年正月大坂嵐
こ石橋つ芝ゐ。女形嵐喜代こ八百屋お七を勤る。これお七の
狂言の始なり 同四亥年 霜月中村座へなりし喜代こ下れ。
冬ゑ社大評判 同五子年 中村座 けいせい嵐雷我 お七ゑ嵐
喜代こ大当り。此頃地蔵坊正元といふ者江戸入りぐへ古地蔵を
建立と。俗の附の名と吉三郎といひるゆゑ吉三道名とゝく
よぶ是お七ゑの提の為ゑ立といふ評判ゑり。狂言作者
津打治兵衛。お七ゑ恋ゑふ男ハ吉祥寺の小姓吉三郎とい

010190605499